



1998.6

# TIA ニュース THE VOICE

編集・発行 財団法人高松市国際交流協会

TIA ニュース・THE VOICEには、高松市の国際交流に関する声をまとめていきます。

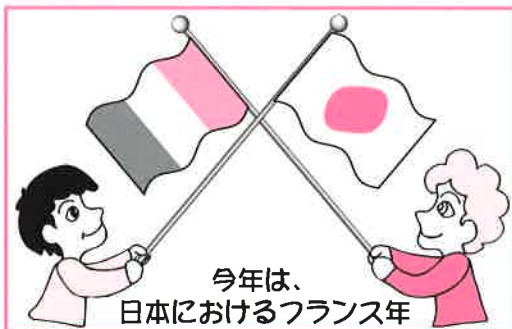
No.12

Index



- ★ グローバル・トーキング (出産・育児)
- ★ '98高松市国際交流 ボランティアの集い
- ★ フランス宮廷音楽 アンサンブル・フィリドール

- ★ 第7回中学生訪中親善使節団
- ★ 早稲田大学国際部学生の高松体験
- ★ ニィハオ！ 南昌市からの農業研修生です
- ★ セント・ピーターズバーグ市への親善使節団員募集



- ★ 今年もやってきます。フルブライト基金教員プログラム
- ★ 国際交流団体紹介
- ★ インフォメーション
- ★ 編集後記





ジャン・クリストフ エラリー  
(フランス)

国を越え、性を越えた社会づくり

# 出産と育児 **グローバル・トーキング**



李 眩珠 (韓国)

育児についてですが、普通の保育所は一日中子どもを預かってくれます。保育所に行かない子どもは、週に10時間くらいの保育所に行きます。例えば、学校が休みの昼や土曜日の昼から子どもを預かってもらい、その間にお母さんは買い物をしたりします。また保育所に行かない子どもは両親が働く場合、親の両親に預けられます。その他、乳母という制度もあります。乳母というのは保育所や個人的なベビーシッターでもなく普通の家庭で預かる制度です。この制度はお金がかかるのですが、国から少し援助があるので金銭的にはそんなに大変じゃありません。



平野 キャシー (カナダ)

私はまだ独身ですので、実際は出産や育児については知識がありません。だから一般的な韓国の現状について話をします。

まず韓国も日本や他の国と同じように、公務員の場合は出産の前後や育児のために1年間休みを取ることはできます。昔からの胎教に気を使っていて、例えば、鶏肉は肌が鶏のようにツブツブになるといけないので食べないとかです。出産は、他の国と同じように病院で産んでいるんですが、違う点は出産後にワカメスープをいっぱい食べることです。出産後の子宮の栄養になるからです。それから、出産後3週間以内は、病気になる困るので家族の人以外は出入りをしません。

出産に関しての一番の問題は、韓国は家を継がせるために男の子を欲しがると強い傾向があるということです。

そのために男の子の人数が異常に多くなっています。だから結婚できない男性が増えて、性犯罪とかが社会問題になるのではないかと、今心配されています。また、みんな男の子の出産を望むため、妊娠したら男の子かどうかの検査を望みます。しかし、最近の産婦人科では検査は法律で禁じられています。

育児は、共働き夫婦かどうかによって違うんですね。また、子どもは保育所に行くんですが、ほとんど午前中までで夜遅くまでやっているところはないので、夜遅くまでは例えばおばあさんに預かってもらうことが多いようです。



マーチン・ジョンストン (アメリカ)

今日はインドネシアの出産と育児について簡単にお話しさせていただきます。インドネシアの人口は、世界で4番目に多い国です。だから政府は20年前から、子どもは2人までとするフェーマリー・フェンディング・プログラムというシステムをつくりました。

インドネシアで女性が妊娠すると、私たちジャワ民族は妊娠7カ月の時、親戚や友人が家に集まってお祝いの式をします。そして出産はだいたい病院でしますが、田舎の人は家で伝統的な出産をします。病院の出産は日本とよく似ています。退院してからは、お母さんやお手伝いさんが手伝ってくれます。伝統を守る人は、赤ちゃんの胎盤を病院から持って帰って、家の庭に花と一緒に埋めます。また、赤ちゃんのベッドシートの下にお守りとしてはさみとかナイフを置いておきます。出産後35日目に、羊を神様に捧げてお祝いをします。

育児ですが、保育園は数が少なく費用も高いので、あまり預ける人はいません。最近の家庭では育児は主婦でお互い助け合っています。

インドネシアでは宗教はとても大切なので、子どもはだいたい3才頃からアラビア文字やイスラム宗教の勉強に、近くのモスクに行きます。

出産に関しては、助産婦を雇って自宅で出産することが現在多くなってきています。私の場合11年前に日本で出産したのですが、立ち会いをしてもいいという病院はほとんど見られませんでした。そして出産後の入院は、日本の場合は1週間ですが、カナダの場合は24時間だけです。これは非常に大変だという人がかなりいます。日本では失って欲しくない制度の一つです。

育児に関しては、お父さんのほうがかなりいろんな育児の手伝いをします。ただし、女性のほうが時間的にやることは多いです。



ヌルハヤティ アルフィン (インドネシア)

出産については、10年前は女性は3カ月の休みが取れたのですが、今は5カ月、高齢出産であれば6カ月の休みが取れます。出産は帝王切開が多いようです。その理由は、自分も苦しなくていいし、子どもの障害のリスクが少なく、次の子どもは政策上産む必要がないからです。

中国では、女性は出産してから1カ月はあまり働かず、お母さんが面倒を見てくれます。そして育児ですが、男性のほうが育児をしています。それは、95%以上が共働きだからです。だから、男性がおむつを干したり、エプロンを付けて食事を作ったりしています。

中国の託児所、幼稚園、小学校はみんな質が違います。両親は、値段が高くてもいい幼稚園に預けようと思っています。それは、1人っ子政策のために子どもが1人だからです。だから、両親ばかりじゃなくて両方のおじいちゃん、おばあちゃんも甘やかす傾向にあり、中国で社会問題になっています。



黄 東陽 (中国)

私の国アメリカでは、現在子どもの世話の危機と呼ばれるものがあります。従来は子どもの世話は簡単なものでした。子どもたちは大半の時間を母親や家族と過ごし、それが子どもにとって最初の学校となる幼稚園に入るまでの4~5才まで続きました。しかし、今日子どもを育てるために、自らのキャリアを断念しようとする女性達はほとんどいません。

今アメリカにおける子どもたちの4分の3は、何らかのタイプの専門的な世話を受けています。それは、ベビー・シッターや政府の支援によるデイケア及び職場でのデイケア、民間の慈善の学校等です。その需要が急激に増大した結果、適正に訓練を受けた子どもたちを世話する従事者の数が極めて少ない状況にあります。

また、アメリカの子どもたちとその両親が直面しているもう一つの問題は、離婚率の問題です。今日、父親・母親と一緒に暮らしている子どもは55%しかいません。

最近アメリカの社会で生じた変化は、女性たちを助けてきました。しかし現在のアメリカにおける問題は、国が母親と同じように子どもを育てることができるのかということです。

# —これからの国際交流活動についていっしょに考えました— 外国人と 本音でトーク!

狭い高松で一緒に暮らす日本人と外国人。お互いに、何を感じ、考えているのでしょうか？  
2回目を迎えた「外国人本音でトーク」では、今年もゲストスピーカーと会場の参加者が国際交流をしながら感じたことをざっくばらんに話しあいながら、これからの活動のありかたをいっしょに考えてみました。

From '98 高松市国際交流ボランティアのつどいより

## 協力しながら 国際交流を!



クリサン ニュランスキー  
香川県国際交流員  
アメリカ  
高松在住3年目

クリサン：こんにちは。今日は、A-JETでのボランティア活動で一番成功したイベントを紹介したいと思います。そのイベントはゴミバスターズという海岸清掃活動でした。去年の4月、地球の日（アースデー）の記念として外国人と日本人が協力して屋島の長崎の鼻で清掃活動を行いました。みんな本当に楽しんでよくがんばりました。いろんな人々や団体との協力で大きなイベントになりました。必要性もありました。清掃した場所はすごく汚れてましたから。みんなで協力しながら話をして、友情ができたと思います。みなさま方の活動も協力という目的を目指したら一番いいと思います。

それから、たくさんの若い日本人が外国へ勉強に行ったり、仕事に行ったりしていますけど、あまり参加されていません。その人たちは、いい交流人材になるから、そういう人に声をかけることにも力を入れたいと思います。みなさま方に質問があるんですけど、同じ人たちがイベントに参加し、あまり他の人たちに広がっていません。どういう風に、将来に国際交流を広げようと思っていますか？ここに今年、海外から帰ってきた人が前にいますから、まずその人に聞いてみたいと思います。どうぞ。

参加者1：香川県にもたくさん、帰国子女の方とかいると思うんですけど、なかなか国際交流をする機会が少ないんですね。

クリサン：どんなイベントとか行事がおもしろいと思いますか。

参加者1：たとえば、テーマを決めて、賛成か反対かというディベートとか。

参加者2：地域と学校と家庭が一体となって、共同した小さなイベントづくりからはじめていくべきだと思うし、非常に大事なことだと思います。

参加者3：いろんな異文化を経験した子供たちが、いろんな社会のシステムそのもののメリット、デメリットを公平な目で見て、その人たちが発言していくことによって、国際交流ってというのはすすんでいくんだなあと感じています。

## フィリピン人と 友達になろう!



エドワード バラン  
香川大学農学博士  
フィリピン  
高松在住6年目

エドワード：みなさんよろしくお願ひします。私の話したいことは、フィリピン人と日本人の国際協力と国際交流です。国際化には、私たちの内面に目を向け、見つめ直すことが必要です。それには、心と精神の変化を含んでいます。もし、他国の民族に対する感情と態度が正しい方向になれば、私たちは効果的な国際交流と国際協力ができません。我々には異なっている点があるけれども、お互いに理解し、尊敬し、受け入れ、そして興味を持つことが必要です。

現在、高松市周辺に在住するフィリピン人の人口は、約270人です。日本人と結婚した人、芸能人、職業訓練生、あと学生です。

フィリピン人との活動が十分でない理由として考えられるものですが、1つめの理由は情報や交流の不足。このことは情報、伝達の問題です。それと言語の問題です。2つめの理由は、フィリピンまたは日本の文化に関して、お互いに知識、理解および受け入れることが不足しているからです。このことは、文化的背景に関する情報が限られているからです。あとマスコミの偏った報道による、悪い印象があります。3つめの理由は興味不足です。

最後に、フィリピン人と手をつなぎ交流していく方法ですが、1つめは彼らと友達になる、2つめは欠点もあるがフィリピン人の個性を理解し、受け入れることです。本当にフィリピン人は、愉快です。いつもにこやかに笑っていて、もてなしがよく、そして意欲的です。あと家族志向であり、ゴルフ志向です。3つめの方法は、あなたのほうからフィリピン人に興味を示すことです。フィリピンの独立記念日が6月12日であるので、その日にフィリピンの食べ物やダンスを楽しむとか、フィリピンと日本の合同プロジェクトを主催することです。

ご質問がありましたら、あとで質問してください。

# 日本人と 友達になるのは 難しい?!



舒 清霞  
香川大学教育学部  
中国  
高松在住 3年目



本当に熱いトークで、内容をすべてお伝えしきれないのが残念です。この日、寄せられたご意見、ご感想を今後の協会の事業運営の参考にしていきたいと思います。

舒 清霞：今日はよろしくお願ひします。

日本に来てもうすぐ3年が経ちます。もうすっかり日本の生活に慣れました。日本に来て、最初は日本の学費あとは家賃の高さにすごくびっくりしました。日本で生活しているうちに、なんとなく自分は中国人として差別されていると感じますね。またさらに、日本の若者との交流はすごくむずかしいことで、私は日本の若者は外国人に、特に同世代の私たちにあまり積極的に接触したくないということを、すごく不思議に思っています。それはなぜなのでしょう。私はこれから日本で生活しながら、どうしたらよいのでしょうか。ぜひ、会場のみなさまにアドバイスしてほしいと思います。お願ひします。

参加者A：日本人は一緒に釜の飯を食べたとか、そういうことで心のつながりを持つんです。そういう機会をなんでしたら設けましょう。

舒 清霞：いろんな活動に積極的に参加してるけど、まだ心からの交流はできてないと思います。

参加者B：私は大学生ですが、日本人の学生からするとおそらく交流をしたがらないとか外国人と交流することに興味がなくて、おそろく外国人と話すのにちょっと抵抗があると思うのです。恥ずかしがり屋というか…。

舒 清霞：でも、こちらから積極的に声を掛けてたけど、なかなか返事もせず、それはなぜなのでしょう。こちらから声をかけても返事もされないと、ばかにされた様な気がします。

参加者B：やはりいろんな学生がいるわけですから、正直申しましてそれははずれだったと思うたほうが良いと思います。人にもよりますが、交流を求めている学生もたくさんいると思います。

エドワード：友達に関しては、私の場合はあまり問題はないですね。フィリピンの人は友達をつくりやすいです。フィリピンは友達だったら、本当の友達。日本の場合は表面的な友達関係。私にも日本人の友達がいる。私は全部本当のことを話しますが、彼は個人的なことは他の人にいいません。だから私はいいこと悪いこと両方いいこと悪いこといいこと悪いことと言ってくださいと言ったら、だんだん本当の友達になってきました。

クリサン：私もいろんな活動をとっている知り合いがいますが、深い友達を作るのは本当に難しいと思います。でもそれはどの国も、フィリピン以外は同じかもしれない。でもやっぱりそれは心と心のコミュニケーションが必要です。まずはお互いの文化を深く知らないのだめだと思ひます。それはいい点と悪い点両方オープンに話し合いができれば、本当に交流や友情ができていっていると思ひます。

参加者C：今、話題になっているのは「受け入れと拒否」の問題だと思ひます。外国から来られた方は、はやく日本の社会に溶け込みたいと思ひて、社会の中心部にいきなり飛び込もうとするんですね。そこで香川県の人と外国の方との摩擦なり、反発関係が起こってくるんじゃないかと私は思ひます。もし私が他の社会に参加する場合は、その社会が持っている領域なり考え方なりの周辺からはいっていきます。文化に入る手続きがあるんじゃないかと思ひます。

舒 清霞：なんか恥ずかしいけど、自分自身にもきつと問題があると思ひます。でも留学生である私たちが生活の厳しさもあって、それは日本の学生さんや社会人の人にも理解してほしいですよ。日本に私費留学して、生活するために、アルバイトしなければならぬでしょ。そういう点で、あまり時間を作れないことを理解してほしい。勉強も大変だから。それなのに、多くの日本人たちに誤解されています。例えば私のアルバイトのことで話をした時、「週に1回休み?よく働きますねえ。」ということをよく聞きます。最初はよく心配してくれ親切だなと思ひましたけど、よく聞いたらまるで皮肉のように「あなた日本に来たのはやっぱりお金のために。」と聞こえます。留学生として生活は苦しんでいるけど、みんなにそう思われてすごく悲しいですね。

参加者D：実質的な日本の文化を理解しようとしていない外国人が多い。ここに日本人とのコミュニケーションがとれない決定的な問題があると思ひます。私費留学の方は一生懸命勉強していますが、アルバイトをしないと生活できないという現実があります。アルバイトをしながら日本の勉強をすると言うのは大変に困難なことです。できれば私たちの力でそのアルバイトの時間を3分の1、4分に1にして、そのお金で皆さんに一日も早く日本の文化を知っていただくということが私たちがこれから考える本当の国際交流の意義ではないかと思ひます。

舒 清霞：ありがとうございます。ご来場の皆さんは国際交流の意識を持って来られたと思ひますが、でも学生さんたちはそういう意識はなく、外国人に対して、特にアジアから来た学生達には無関心な態度をとっていて、そういう点はすごく不思議で悲しいです。

エドワード：日本人は心理的に、アメリカやヨーロッパ人はレベルが高いと思ひていて、次に中国人、その次に東南アジアとかインドとかの順で、言わないけど思ひています。でもみんな同じ人間でしょう。文化は違うけど、同じ人間です。昔は日本人も経済的に豊かではなかったけど、がんばって豊かになりました。お互い尊重して理解しあうことが、大切です。私たちはいつも国際交流の話をしていますが、東南アジアなど国際交流のなからはずれている人がいます。そういった人たちともしっかりと交流の機会をもつことが大切です。5年前に私が日本に来た時は、国際交流の場にフィリピンの人はいませんでした。だから、私はなるべくそういう場に参加しています。なぜなら、日本人にフィリピンのことをもっと知ってもらって、理解してもらって、そして友達になりたいからです。

私がいいことは、見掛けがどうであろうと、東南アジアの人々を理解し、尊重してほしいのです。中国、アメリカやヨーロッパだけでなく、国際交流の幅をもっと広げてほしい。東南アジアの人たちが国際交流に参加しないのは、悪いイメージを持たれているからです。友達になってくれないからです。私は一生懸命話をしたから友達ができましたけど、他の人はどうしたらいいのでしょうか。これはつらいけど、本当のことです。



**J'aime la France**  
目がさめると、フランスだった。



日仏友好—1998-1999 日本におけるフランス年—公式プログラム

# フランス宮廷音楽 アンサンブル・フィリドール

高松市・トゥール市姉妹都市提携10周年記念

## 高松公演決定！

1998年 **10月31日** 開場17:30  
開演18:00

17～18世紀にパリ郊外のヴェルサイユ宮殿を中心に豪華絢爛に花開いた宮廷音楽をトゥール市で生まれた、フランス宮廷音楽合奏団「アンサンブル・フィリドール」の演奏でお楽しみください。  
また、地元の島田芸術舞踊学校の皆さんによるすばらしいバレエの公演もあります。

## 高松テルサ

高松市屋島西町2366-1 TEL (087) 844-3511

入場料・2,000円

主催・財団法人高松市国際交流協会

### 第7回 中学生訪中親善使節団帰国報告

## びっくり！感動！！ 自分を発見した7日間の道のり

3月25日～31日までの7日間、第7回中学生訪中親善使節団が高松市と友好都市である南昌市などを訪れました。

|     |                 |                                  |
|-----|-----------------|----------------------------------|
| 1日目 | 高松→関空→上海        | 上海動物園                            |
| 2日目 | 上海              | 豫園<br>上海博物館<br>玉仏寺               |
| 3日目 | 南昌              | 南昌第一中学校訪問<br>八大山人記念館<br>夜はホームステイ |
| 4日目 | 南昌              | 南昌大学<br>八一起義記念館<br>市政府表敬訪問       |
| 5日目 | 南昌→北京           | 故宮<br>天安門広場                      |
| 6日目 | 北京              | 明の十三陵<br>万里の長城                   |
| 7日目 | 北京→青島→<br>関空→高松 | 帰国                               |



## 早稲田大学国際部学生の 高松体験

早稲田大学国際部に在籍する留学生たちに日本の社会や文化への理解を深めてもらうために、通常の授業や大都市の生活では味わえない「日本の地方体験」に6人のアメリカ人留学生等が、平成10年2月27日から3日間高松へやってきました。

彼等は、ホームステイを通して、市民との交流を図りながら、栗林公園や、美術館など高松の景勝地や文化にふれ、また、自分たちで作った「さぬきうどん」に舌つづみを打ち、瀬戸大橋ではダブルデッカー（2階だて）の橋の長さとお瀬戸内海の美しさに驚嘆していました。

そして、なによりもホストファミリーのあたたかいおもてなしに感激して3日間の高松滞在を楽しんでいた思い出として東京へ発っていきました。



彼らの素直な感想が一冊の報告書になりました。  
ご希望の方はアイパルまで…

ニハオ!!

## 南昌市からやってきました。



南昌市農業研修生  
左 万順

私は、南昌市から高松市の先進農業技術を勉強するためにやってきました、左万順です。

南昌では、牧医を専門に勉強し、畜牧業の生産管理と畜牧獣医技術のサービス関係の仕事をしています。3月11日に高松に来てから皆さんのおかげでとても楽しく充実した毎日を送っています。高松市はきれいな街で、市民の皆さんもとても親切です。日常生活も不自由に感じません。先日初めて桜を見ましたが、きれいで大変うれしく思いました。

この研修の機会をととても大事にしたいと思っています。日本語を一生懸命勉強して、進んだ農業技術、特に専門分野を学び、南昌の発展に役立たせたいと思っています。



南昌市農業研修生  
刘 松伟

私は、南昌市からの研修生で、刘松伟です。専門は野菜の優良な品種を導入することや試してみること、また、いろいろなものを組み合わせた栽培の新技术の普及です。

高松市に来てから早や一カ月が経ちました。高松市はとてもきれいで、周りの人たちは皆親切です。まるで自分の国にいるのと同じくらい住みやすいと感じています。今は日本語を勉強しながらいろいろな日本の文化を楽しみながら学んでいます。これからも一生懸命がんばりたいと思いますのでどうぞよろしく願います。

### 米国から 20人の先生が来高

#### 《フルブライトメモリアル基金プログラム》

今年もフルブライトメモリアル基金のプログラムで米国から20人の先生が高松市内にホームステイして、小学校、中学校、高校を訪問し交流を深めます。

- 10/13..... 女木小学校
- 10/14..... 高松第一高等学校
- 10/15..... 木太中学校
- 10/17(土)~18(日) ホームステイ

★一泊二日のホームステイ受け入れ公募については“広報たかまつ”でお知らせします。

### 高松市内国際交流団体紹介


高松市内には、たくさんの国際交流団体がありますが、今回は“セカンドハンド”さんをご紹介します。

#### セカンドハンド

“セカンドハンド”といえばカンボジアに学校を建設していることで皆さんよく御存知でしょう、と同時に識字教育の支援も重視しています。

皆さんから無料提供していただいた商品を販売してその収益金を全てこういう国際援助に充てています。

セカンドハンドさんの活動をもっと詳しく教えてほしい!! という方は、事務局まで。



高松市田町12-4 TEL087-861-9928  
セカンドハンド本部事務局  
また、セカンドハンド通信という機関誌も発行しています。



#### ☆セント・ピーターズバーグ市短期研修生のホストファミリー募集!

今年も姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市(米国)の高校生2名を7月中旬から8月中旬まで短期研修生として受け入れます。その間ホームステイさせてくれる家庭を募集しています。

#### ☆今秋、姉妹都市市民親善使節団員募集!

- ・派遣先：セント・ピーターズバーグ市内
- ・期間：10日間程度
- ・募集人数：5人

くわしくは  
広報たかまつを  
御覧ください。

## フランス理解サロン開催

今年は、高松市とフランスのトゥール市が姉妹都市になって10周年！  
「フランスにいきたい！」  
「興味があるが、あまりよく知らない」  
「フランスの人々の生活や習慣に触れてみたい」  
というフランス初心者の方のために、フランス理解サロンを開催します。

日時：平成10年6月20日(日) 14:00~16:00  
場所：高松市女性センター  
講師：フランスからの留学生等  
参加費：500円



ボランティアとして、フランス理解サロンの企画、準備に参加希望される方を募集しています。TIAまでご連絡ください。

## 外国人によるのど自慢大会 (伝えよう日本の心をあなたの素敵な歌声で)

多くの方のご来場をお待ちしています。

日時：平成10年7月5日(日) 14:30~16:30  
場所：香川県社会福祉総合センター



※当日お手伝いくださる方も同時募集しています。

## KUFSA夏日帰り旅行(直島)

日時：平成10年7月12日(日)、雨天決行  
参加費：小学生500円、中~大学生1,000円、一般1,500円。  
お申し込みの際、払ってください。  
当日参加できなくても、返金はできませんのでご注意ください。  
申込期間：6月22日(月)~7月3日(金)

## 国際交流青年のつどい

日時：平成10年8月9日(日)  
場所：県民ホールアクトホール  
参加費：日本人3,000円、外国人500円

※当日お手伝いくださる方も同時募集しています。



## 高松まつり国際交流おどり子連

暑い夏がやってきました! 夏といえば“まつり”。今年も一緒に踊りましょう!

日時：平成10年8月14日(金) [予定] 事前練習あります。  
場所：中央通り  
募集人数：外国人50人、日本人50人  
申込期間：7月7日(火)~17日(金)



※当日お手伝いくださる方も同時募集しています。

●各催し物のお問い合わせ・お申し込みは当協会までどうぞ。(TEL 087-837-6003)

## 《編集後記》

今年度から(財)高松市国際交流協会の活動を、より広くお知らせするために『TIAニュース・The Voice』を年2回発行してお届けします。  
今号は、グローバルな座談会をメインに、対話式でまとめたの特集号にしました。ご意見・ご感想をぜひお寄せください。

m.y



1998年6月 (No.12)



Takamatsu International Association  
財団法人 高松市国際交流協会

〒760-0017 香川県高松市番町一丁目11番63号  
アイパル香川内  
TEL (087) 837-6003  
FAX (087) 837-6005

1 PAL KAGAWA, 11-63 Ban-cho 1-chome  
Takamatsu, Kagawa